学校便り　12月号

かけはし

学校 HP　　学校ﾌﾞﾛｸﾞ

薩摩川内市立里小学校　薩摩川内市里町里 1601　TEL 09969-3-2008
発　行　令和 6 年 12 月 18 日　　責任者　校長　永野 俊也

里周辺海水温
23 ℃(12/1)

モーツァルト　と　サリエリ

人権旬間に思いめぐらす

校長　永野 俊也

全校集会で、「モーツァルトって知ってる？」と尋ね「ん？」と首をかしげる子どもたちに、「ﾀﾝ.ﾀ.ﾀﾝ.ﾀ.ﾀﾀﾀﾀﾀﾝ.～♪」と、ｱｲﾈｸﾗｲﾈﾅﾄﾑｼﾞｰｸの一節を口ずさむと「あ～ぁ!」という反応が返ってきました。今月は、大学時代に観た「アマデウス」という映画にまつわるお話です。

当時音楽の都ウィーンで、宮廷楽長として一世を風靡した**サリエリ**（彼は、「モーツァルト許してくれ･･･」と叫び、自殺を謀り精神病院に入院しています）。その彼のもとへ、神父がその苦しみを救おうと訪ねて来たことから、サリエリの独白（回想）が始まります。

サリエリは、貧乏の中から神に祈りを捧げ努力に努力を重ね、宮廷楽長の地位まで上りつめます。そういう彼は、「私の人生は、すべて神様と音楽に捧げます。」と宮廷楽長になった後も、神に祈りを捧げ、禁欲的な生活を送っていました。そこへ若き天才モーツァルトが現れます。彼の才能は、大衆から称賛されますが、天真爛漫で礼儀知らずのふるまい（サリエリが密かに思いを寄せていた女性もモーツァルトにもてあそばれてしまいます）は、他の作曲家から軽蔑を受けます。ですが、ただ一人サリエリだけは、「モーツアルトの才能は、神から授けられた最高のもの」と理解してしまい、自分には、他の人には理解できないその真価がわかる才能しか神は与えてくれなかった…。とその苦しみに苛まれるのでした。「神よ感謝します。」とロオザリオを炎にくべ、彼の狂気が始まります。やがて時代を先取りし過ぎているモーツァルトの音楽は、聴衆の理解を超え、彼は経済的に困窮し、体調を崩していきます。そんな中、仮面の男が現れ大金を渡し、極秘裏に**死者のためのレクイエム**の作曲を依頼するのでした･･･。

当時アカデミー賞をいくつも受賞したこの映画で、モーツァルトやサリエリの人間性を、映画の通り真に受ける人が出てくるのではないか？と心配しました。これはあくまでもフィクションの世界です。幸いにして、もともとモーツァルトは、当時もかなり研究が進んでいたことに合わせ、この映画をきっかけにサリエリにもスポットが当たり、彼の業績や作品が再評価されるようになりました。

実際のサリエリは、ベートーヴェンやシューベルト、リストといった名だたる作曲家を指導した優れた教育者でしたし、貧しい音楽家は無料でレッスンを行うなど、音楽を通した慈善活動も積極的に行っていました。ただモーツァルトとの関係は、モーツァルトが「ウィーンで高い地位に付けないのはサリエリのせい。」と思っていたらしく、ギクシャクした関係にあったようです。そういう中にあっても、モーツァルトが若くで亡くなると、その葬儀に参加し、若き天才の死を悼みました。そして、未完成で残されていたレクイエムを補筆完成させ、初演しています。ところが、晩年サリエリは楽閥の派閥争いに巻き込まれ、「サリエリがモーツァルトを毒殺した。」という根も葉もないうわさを流され、苦しむことになります･･･。200 年前でも、うわさ話で人を追い込むことがあったのですから、SNS が発達した現代、信憑性のないうわさを拡散することが、いかに人を傷つけるものなのか…、まるで恐ろしい凶器が飛び交うように私は感じてしまいます…。　（サリエリのうわさは現代まで続いています…）

映画で殺意を抱いたサリエリでしたが、死の床にあるモーツァルトから、「私はあなたから嫌われていると思っていた…」と謝罪を受け、彼の最後の作品を残すため、思わず協力していくのでした。サリエリを救うために来たはずの神父は、独白を受け何も言えずうなだれてしまいます。看護師に車いすを押され、精神病院の中を笑顔で「凡庸なる者を私は許そう」とサリエリは去っていくのでした。

ボランティアに感謝!!

１２月７日（土）に川内４団体連絡協議会による学校施設への地域貢献活動として、樹木の剪定や、戸の建付け調整等を行っていただきました。

ありがとうございました。
行っていいただいた企業は、宮内建設、野島電工、蔵元液化ガス、（有）シオタ、ヨスミ建設、水健システム（敬称略）の皆さんです。

力走!校内持久走大会

１２月５日（木）は、校内持久走大会がありました。

子供たちはこれまで、朝の体力アップの時間や体育の時間を使い、自分の目標達成に向けて練習を重ねてきました。

本番当日は、校庭、沿道に保護者の皆様や、地域の方々が大勢詰めかけてくださり、温かい声援の中、子供たちは精一杯走りきることができました。

自分の記録を達成できた子供、そうでなかった子供、それぞれかと思いますが、この持久走大会に向けての取組から得たことを、今後の生活に活かしてほしいと思います。

皆様の温かい御声援、ありがとうございました。

空き瓶回収、ありがとうございました!

１２月１４日（土）は、ＰＴＡの空き瓶回収がありました。当日は、ＰＴＡ会員の皆様、地域の方々、小中学生等、多くの皆様方の御協力で、たくさんの瓶を集めることができました。収益金額は、後日、分かり次第お知らせし、有意義に活用させていただきます。

御協力、ありがとうございました。

1月行事

５日（日）鬼火焚き
　　出初式
６日（月）仕事はじめ
８日（水）始業式・大掃除
１１日（土）土曜授業
１３日（月）成人の日
１５日（水）委員会活動
１７日（金）かのこゆり号来校
２１日（火）授業参観（なわとび大会）
２１日（火）～２２日（水）
　　鹿児島学習定着度調査（５年）
２２日（水）クラブ活動
２８日（火）小学校体験入学･入学説明会
２９日（水）～３１日（金）
　　先生と語ろう週間
３０日（木）中学校入学説明会
３１日（金）幼稚園新入園児説明会

また、保護者の皆様は同日に行われました、PTA 及び学校保健委員会にも参加いただきありがとうございました。令和７年も引き続き御協力よろしくお願いします。

今月の付録

トンボロ地形の成り立ちと里村の誕生！　里の成り立ちを紐解く 地理･地質学編　（今回読み切りです）

【和歌山県 串本】

【 北海道 函館】

今月４日の水曜日、里小 5･6 年生と里中１年生の一つのグループが、中期ふるさとコミュニケーションの授業で、「トンボロ地形」について、その成り立ちなど発表を行いました。せっかくですから私の漁師としての短い経験を踏まえ、トンボロ地形について少し掘り下げてみましょう。

子供たちが発表していた通り、イタリア語で「土手」とか「丘」を意味する「トンボロ」地形は、日本各地に存在します。その中で、トンボロ上に人が住み、生活している代表例として、**和歌山県の串本**（ここは紀伊半島の最南端で、ポコッと太平洋に突き出ており、関西エリアのダイビングスポットとしても有名です）。それに、100 万ドルの夜景と称される夜景が有名な**北海道の函館**を例にあげていました。（いずれの地形も里によく似ています。Google マップ等でぜひ探してみてください。）

子供たちが説明していたように、トンボロは、季節風や海流の影響でできるのですが、その成り立ちを具体的に見てみましょう。

トンボロは、陸から少し離れたところ（このちょうどいい距離がポイントです）にある島に向かって形成されます。その形成要因は次の３つです。

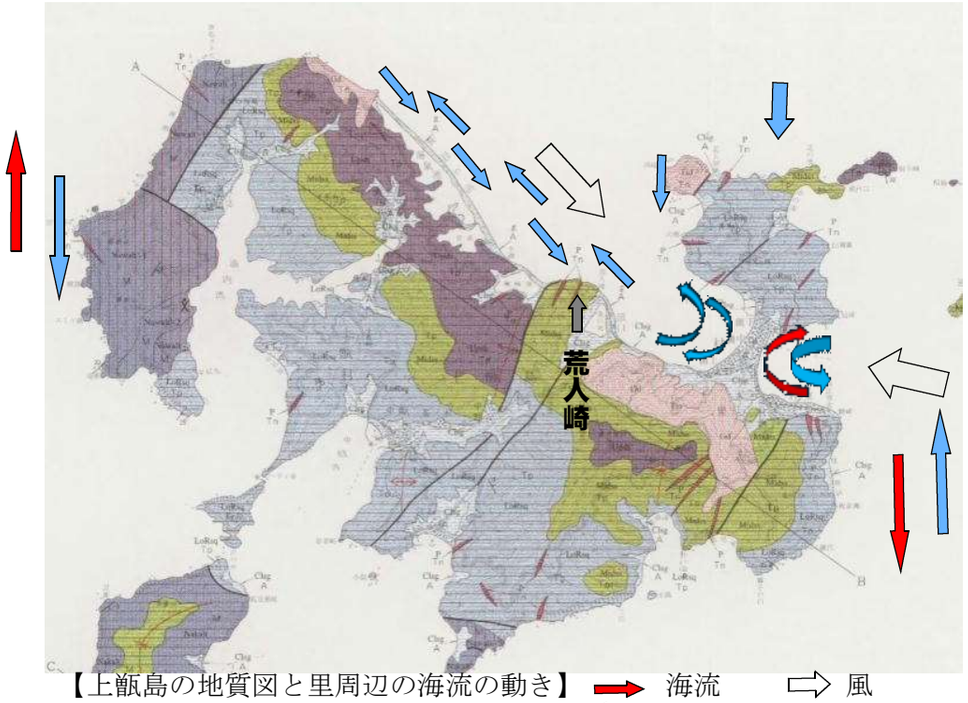
その１：　陸から少し離れた島の海峡では、波が島を回り込み、ちょうど島と陸との真ん中で、両方から回り込んだ**波が互いに干渉**し合い波が立ちにくくなる。そのため、河川からの土砂等が堆積しやすくなる。

その２：　**季節風**（里では主に、春～夏 東風 秋～冬 北西風）の影響で、砂礫が流されその真ん中に堆積する。

その３：　**湾流** 一度海峡が閉じると、周りの海流の影響で湾をぐるっと回る湾流が発生（甑島の外海は、基本南北に流れています）する。それが上げ潮、下げ潮の度に回転を変えるので、真ん中部分に砂礫が集まる。

私の漁場は、東の浜では漁協裏のテトラ沿い～学校瀬までと戸波白どんのテトラ沿いから旧国民宿舎まで。それから西の浜は、北の港沿いのテトラ（１番）～から一番南の開発公社前のテトラ（８番）まで（漁師さんは、テトラを北から順に８番まで番号で呼びます）を主としています。

漁業日誌を見てみると、確かに春から夏は、東風で西の海に入ることが多く、特に冬は北西の風で、東の海ばかり入っています。
塩田甚志先生の本には、「夏の南東風（おしあな）、冬の北西風（あなぜ）は忌むべき悪風」という記述があります。夏の台風、それに冬の嵐が里の人々にとって昔からいかに大変だったかということがよく伝わります。



【上甑島の地質図と里周辺の海流の動き】　海流　　風

一度海に入ると大抵２～３時間、浮き輪を押して泳いでますが、湾流に乗れると楽に泳げますし、逆の時はテトラになるべく寄ることで、流れを少しでもかわします。そんな時に、この流れが里のトンボロを育ててくれているんだと、なんか「ありがとう♪」という気持ちになります（逆の流れがキツイ時はしんどいです…）。

ところで、左の地質図を見ると、なぜ、東の浜はすぐ深くなるのに、西の浜は遠浅なの？という答えも見えてきます。東の浜の方が、島の斜面から供給される砂礫が多いことがわかります。

長目の浜の なまこ池 ～ 鍬崎池 までは、もともと入り組んだ海だったところに、海流等の影響で砂礫が堆積し伸びてきて、（この伸びてきた部分を**砂州**[さす]といいます。）海から切り離されて池（これを**潟湖**[ラクーン]といいます。）となりました。ですからこれらの池は塩水で、荒人崎で隔てられた須口池は淡水です。

トンボロのでっかいやつは、秋田県の日本海に突き出た ナマハゲで有名な**男鹿半島**、潟湖のでかいやつは、日本で三番目に大きい湖、北海道の**サロマ湖** といろいろありますが、トンボロと潟湖を１度に見られる場所は、日本広しと言えども、里村ぐらいです。ですから里は、歴史・民俗ばかりでなく、地理・地質学的に見てもとても価値があり、魅力的な場所だと私は思います。

さらに、なぜ自然環境が厳しい里のトンボロに、古（いにしえ）の人々が住むようになったのか？　について、性格の違う、東の海と西の海を持つことは、沿岸で漁をしていた古代において、今の私のようにとても都合が良かったのだと思います。そして、遠浅の西の浜は、キビナゴの産卵場所に適し、キビナゴの一大漁場となりました。やがて食物連鎖が連鎖を呼び、甑島周辺は、回遊魚なども多く集まる絶好の漁場となり、多くの人々が集り、やがて里村に育っていったのだろうと思いました。そういうふうに考えていくと、とてもロマンを感じます。
愛する里の風土を、これからも子供たちに語り継いでいきたい。そう思いました。　　［ 完 ］